

平成 28 年度（2016 年度）

第 56 回大会

男子優勝：札幌藻岩 女子優勝：北星学園女子

【全道大会寸評】

第 56 回となる北海道高等学校テニス選手権大会は、6 月 14 日から 17 日の 4 日間の予定で、帯広の森テニスコート開催されました。大会期間中、雨天のため丸一日以上の中断に見舞われ、結果的には 18 日の午後に全日程を終了するということになりました。悪天候の中での大会となりましたが、選手は力を振り絞ってのパフォーマンスを出し切っていたように感じました。

今大会を通して、当番校の帯広三条高校の教職員や生徒のみなさんをはじめ、多くの方々のご尽力のおかげで、日程は延長されたものの無事大会を終えることができましたことを、心から感謝申し上げます。

男子団体戦は個々の選手に力のある札幌藻岩高校が 8 年ぶりの優勝を飾り、女子団体戦は北星女子中学高等学校が念願の初優勝を遂げました。ここ数年は男女ともにどの高校も戦力が均衡し、今年も接戦が繰り広げられました。どちらの高校も、世界のテニス界のトップ選手である錦織圭の出身地の島根県で行われる全国大会での活躍を期待します。

男子ダブルスは第 1 シードの山下・福永組（札幌藻岩）が優勝に輝き、山下は昨年に続き連覇を果たし、札幌藻岩としても昨年に続く連覇となりました。女子ダブルスは第 4 シードの三浦・渡邊組（北星女子）が団体戦の勢いを生かし優勝し、北星女子としては団体同様に初優勝となりました。

男子シングルスは第 1 シードの久保井恭（北科大高）が準決勝以降の接戦をものにして初優勝に輝きました。北科大高としても個人戦では初優勝となりました。女子シングルスは第 1 シードで 1 年生の沖田優羽（札幌藻岩）が他の選手を寄せ付けず、力で押し切った優勝を遂げました。

今大会は、団体戦と個人戦を合わせて男子が 4 校、女子が 5 校と、多くの高校の選手が全国大会の切符を手に入れました。年々道内各支部の選手の力の向上も感じられた大会となりました。

以上、各選手の全国高校総体での活躍を期待します。

【全国大会】

2016中国総体テニス競技は、8月1日から8日松江市営庭球場、安来運動公園庭球場の2会場で開催されました。連日37℃に達する厳しい状況の中、北海道の選手は勝利目指しての全力のプレーをみせましたが、団体戦、個人戦とも上位進出を果たすことはできませんでした。男子団体戦1回戦では、札幌藻岩が、九州3位の鳳凰（鹿児島県）と対戦しました。藻岩は、ダブルス山下・鈴木組、NO1シングルス福永、NO2シングルス折戸で臨みましたが、ダブルスが競りながらも流れをものにできず4-8で敗退すると、NO1・2シングルスも善戦及ばず、0勝3敗での敗退となりました。女子団体戦1回戦では、北星学園女子が青森西と対戦、ダブルスの稲川・工藤組が落ち着いたプレーで8-4で勝利をおさめると、NO1シングルの渡邊が8-3、NO2シングルの三浦も8-1と、しっかりと力を出し切り、3勝0敗で初戦を突破しました。2回戦では、奈良育英と対戦、北星は1回戦と同じオーダーで臨みましたが、ダブルスは互角の戦いとなりましたが、後半の大事なポイントをものにできず5-8と惜敗、続くNO1シングルスも2-8で、0勝2敗での敗退となりました。NO2シングルスが4-3とリードしていただけに、ダブルスの敗退が残念でした。個人戦には、男女シングルスに各4名、男女ダブルスに各2組が出場しました。女子シングルス1回戦では、沖田（札幌藻岩）が湘南工科（神奈川県）と対戦、実力が拮抗しており、終盤までは勝敗がわからない展開でしたが、正確な球を打ち続けたストローク力と、大事なポイントでの高い集中力で沖田が勝利、8-6で接戦をものにしました。今大会個人戦における北海道勢の勝利は、この1勝にとどまりました。ただ、男子シングルス福永（札幌藻岩）5-8履正社（大阪府）、男子ダブルス久保井・高島組（北科大）5-8文星芸大附（栃木県）、福永・山下組（札幌藻岩）6-8柳川（福岡県）、女子シングルス沖田の2回戦5-8愛知啓成、小山内（大谷室蘭）4-8静岡市立、女子ダブルス五ノ井・横井組（札幌日大）4-8堀越（東京都）など強豪校の選手に勝利するチャンスをうかがわせる試合もみられました。しかし、全体としては、序盤自分のプレーができずに焦ってミスを重ねて引き離されたり、試合の中盤から終盤の大事な場面でポイントの取り方がなく、勝利に結びつけることができなかつたといえます。今年度出場した選手の中には、1、2年生の者も多く、今後は上記の事を意識した取り組みが期待されます。

優勝のよろこび

札幌藻岩高等学校 主将 山下 大貴

藻岩高校テニス部がインターハイに行けず8年が経とうとしていた。8年前以降の藻岩常勝時代とは異なり、今の僕達は個々の力は乏しい。

そんな僕達が優勝するまではとても厳しく、苦難の連続だった。振り返れば去年の選抜、26年連続出場を途絶えさせてしまった。チームとしてはドン底からのスタート。しかし「インターハイでやり返す。」その気持ちが今までバラバラだったチームを少しずつ一つにまとめていった。そうして臨んだ今シーズン。春季、支部と団体に優勝こそしたものの、まだまだ不安要素が多く、本番の全道大会で勝てるかどうか心配だった。そして迎えた全道大会。初戦から準決勝まで、今までにないチームで戦う一体感のようなものが感じられた。決勝の時の僕達は本当のチームだった。試合内容は厳しいものだった。しかし、隣のコートを見れば、仲間も苦しみながらも必死に戦っていた。そして、僕達は勝つことが出来た。誰かが欠けては絶対に掴むことは出来なかった。私事になりますがテニスで勝って初めて涙がこみ上げてきた。自分達がやってきたことが間違いではなかったのだと心から思える瞬間になった。

最後にこれから続く後輩たちへ。今回のこの一步目を期に、昔の藻岩常勝時代とは違う新たな藻岩の強さを見つけることが出来た。これはテニスの上手い下手は関係ないと思う。この新たな強さを、後輩に伝え、新しい最強の藻岩を作って欲しいと思う。困難を乗り越え、たった一つの勝利を目指して皆で努力して欲しいと思う。

優勝のよろこび

北星学園女子高等学校 主将 渡邊 菜々子

私達は高校1年生のときから、インターハイに出場することを目標に活動してきました。しかし毎年あと一步のところまで全道大会で優勝することができませんでした。今年は、高校最後の大会ということもあり特別な気持ちでいつもよりさらにギアを上げて試合に臨みました。そして、全道大会で初めて団体戦と個人戦ダブルスの両方で優勝することができました。優勝したときの喜びを今でも覚えています。

私達が勝ち上がったのは、インターハイに出場することができなかった時の悔しさを忘れず、何がだめだったのかなど色々考え日々練習してきたからだと思います。今まで頑張ってきて本当に良かったです。

個人戦ダブルスでは、お互いを信じ試合に挑み優勝を勝ち取ることができて、本当に良かったです。

今までの全国大会ではいつも緊張してしまい、本来の力を発揮することができませんでした。試合で一番だめなことは、自分の実力を出し切らずに終わってしまうことだと思うので、このイ

インターハイでは、一球一球最後まで諦めずにボールを追いかけて、私達力を全て出し切りたいです。

また、今までたくさんの方々にお世話になりました。この勝利はサポートしてくださったみなさんのおかげなので、無駄にしないように頑張っていきたいです。最後に、北海道代表として恥ずかしくないように戦い、必死に精一杯力を合わせ、最後までボールに食らいついていきたいです。全国大会の壁は高いですが、感謝の気持ちを忘れずに頑張って勝利に貢献したいです。

全国高校総体 [第 106 回全国高等学校テニス選手権大会] 島根県松江市・安来市
(情熱疾走 中国総体)

8月1日～8日 松江総合運動公園テニスコート
松江市宮庭球場
安来運動公園

男子 個人戦シングルス 優勝 : 野口 莉央 (神奈川 : 湘南工科)

女子 個人戦シングルス 優勝 : 細木 咲良 (島根 : 開星)